

陟ちよく
岵こ

陟のぼリテ
彼かノ
岵こ
兮

瞻せん
望ぼうス
父ヲ
兮

父
曰ハク
嗟ああ
予わガ
子ヨ

行キテハ
役ニ
夙しゆく
夜や
無カレ
已やムコト

上こひねが
慎ハクハ
旃これヲ
哉や

猶なホ
来タレ
無カレト
止マルコト
とど

陟リテ
彼ノ
妃きニ
兮

瞻望ス
母ヲ
兮

母
曰ハク
嗟ガ
予ヨ
季ヨ

行キテハ
役ニ
夙カレ
夜スルコト
無い
寐スルコト

上ハクハ
慎メ
旃ヲ
哉

猶ホ
来タレ
無カレト
棄オテラ
ルルコト

陟リテ
彼ノ
岡ニ
兮

瞻望ス
兄ヲ
兮

兄
曰ハク
嗟ガ
予ヨ
弟ヨ

行キテハ
役ニ
夙カレ
夜スルコト
必ズ
偕とも
ニセヨ

上ハクハ
慎メ
旃ヲ
哉

猶ホ
来タレ
無カレ
死スルコト

(詩經)

【書き下し文】

彼の岨に陟りて

父を瞻望す

父は曰はく嗟予が子よ

役に行きては夙夜已むこと無かれ

上はくは旃を慎めや

猶ほ来たれ止まること無かれと

彼の岨に陟りて

母を瞻望す

母は曰はく嗟予が季よ

役に行きては夙夜寐ぬること無かれ

上はくは旃を慎めや

猶ほ来たれ棄てらるること無かれと

彼の岡に陟りて

兄を瞻望す

兄は曰はく嗟予が弟よ

役に行きては夙夜必ず偕にせよ

上はくは旃を慎めや

猶ほ来たれ死すること無かれと

【口語訳】

はげ山に登る

あの草木の生えていない山に登り、

故郷の父（の方）をはるかに望み見る。

父は言っていた、「ああ我が子よ、

国境の守りに行けば、一日中怠けてはならぬ。

どうかすべてに気をつけて、

それでもやはり帰って来い、そこにとどまっていけない。」と。

あの草木の生えている山に登り、
故郷の母（の方）をはるかに望み見る。
母は言っていた、「ああ我が末っ子よ、
国境の守りに行けば、一日中居眠りしてはならぬ。
どうかすべてに気をつけて、帰って来ておくれ、死んでそこに屍が棄ておかれたままにならない
ように。」と。

あの山の背に登り、
故郷の兄（の方）をはるかに望み見る。
兄は言っていた、「ああ我が弟よ、
国境の守りに行けば、一日中必ず仲間とともに行動せよ。
どうかすべてに気をつけて、
帰って来ておくれ、死んではいけない。」と。